



④地域資源

- ・長野県・東京都方面や富山県・石川県方面につながる北陸新幹線の上越妙高駅が平成27年3月に開業しました。
- ・本地域の西側及び北東側の平坦地には、広大な農地が広がっています。
- ・上越妙高駅の西側には、弥生時代から古墳時代の斐太遺跡群が広がり、本地域には、吹上（ふきあげ）遺跡と釜蓋（かまぶた）遺跡があります。（平成20年7月に国史跡に指定）



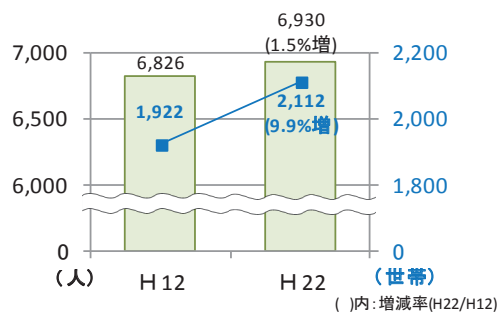
上越妙高駅東口



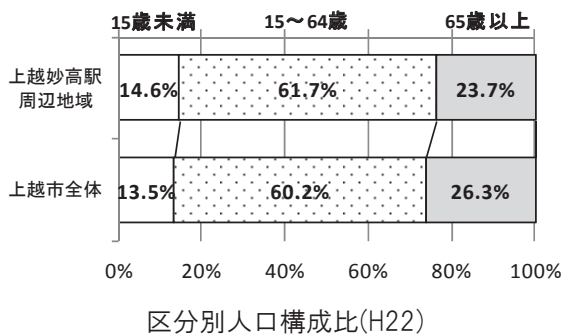
上越妙高駅西口と釜蓋遺跡



上越妙高駅



人口と世帯数の推移



区分別人口構成比(H22)

上越妙高駅周辺地域に関するデータ

- 総面積：約 12 km²（約 1%）
- 総人口：6,930 人（約 3%）
- 世帯数：2,112 世帯（約 3%）
- 15歳未満の人口比率：約 15%
- 高齢化率：約 24%
- 人口増減率（H22/H12）：約 2%増

出典：平成22年国勢調査に基づき集計

※()内は市全体に占める割合

2) 地域の現状と課題

- 北陸新幹線上越妙高駅及び上信越自動車道上越高田インターチェンジを有する本地域は、首都圏・北陸圏と上越地方全体を繋ぐ玄関口として重要な役割を担うことから、観光やビジネスなどを目的とした環境整備や都市基盤*の充実を図りながら、市内外を行き来する人や物の玄関口となる地域づくりを推進することが必要です。
- 田園地域では、一帯に広がる優良な農地や暮らし続けられる生活環境、地域の基幹産業である農業を守り、定住を促進するなど農村集落の維持に向けて取り組む必要があります。
- 上越妙高駅の近くに釜蓋遺跡が位置するという地の利をいかした公園整備を進めることが必要です。

①土地利用の現状と課題

- ・上越妙高駅周辺は、首都圏・北陸圏と上越地方全体を繋ぐ玄関口としての役割を担うため商業系の土地利用が計画されています。また、その周辺に住宅地や流通業務地があり、その外側に農地が広がっています。
- ・上越妙高駅周辺においては、観光やビジネスなどを目的とした市内外を行き来する人々をもてなすにふさわしい機能の集積を図るとともに、周辺住民の生活利便性の向上に向けた土地利用を進める必要があります。
- ・上越妙高駅の東側には、和田企業団地・和田第二企業団地、西田中企業団地が位置する流通業務地がありますが、一部に未分譲地が残っています。上越高田インターチェンジに近接する充実した環境をいかした土地の有効活用を図るため、流通業務地としての適正な活用を進めながら低未利用地*の解消に取り組むことが必要です。
- ・本地域の市街化調整区域*には、農地が広がる中に集落が点在する田園地域が広がっています。そのため、一帯に広がる優良な農地や暮らし続けられる生活環境、地域の基幹産業である農業を守り、定住を促進するなど農村集落の維持に向けて取り組む必要があります。
- ・特に、市街化調整区域*においては、農業環境の維持と暮らし続けられる居住環境のための適正な土地利用が必要です。

②道路・交通ネットワークの現状と課題

- ・本地域では、上越妙高駅周辺や既存市街地*などにおいて安全な道路空間の確保が必要な箇所や未整備の都市計画道路*があります。
- ・今後、北陸新幹線を利用して上越市を訪れる人々が、上越妙高駅から市内各地域を行き来できるよう、上越妙高駅を中心とする市内の交通体系の確保・充実が必要です。
- ・また、地域内における日常生活を支えるため、地域の実情に配慮して、安全・安心な生活道路*の確保が必要です。
- ・地域公共交通*の利用者は減少し、その維持・存続が年々厳しくなっています。今後は、高齢化の進行により地域公共交通*を必要とする市民が増加すると推察されることか



ら、日常生活を支える公共交通の維持・確保が重要となります。

- ・あわせて、北陸新幹線開業により、今後は来訪者の増加を見据えて、北陸新幹線の上越妙高駅と市内各地を結ぶ公共交通の整備が必要です。

③釜蓋遺跡公園の現状と課題

- ・現在、釜蓋遺跡における発掘作業が進められており、貴重な遺跡の保存とにぎわいの拡充に向けた利活用が求められています。そのため、上越妙高駅と釜蓋遺跡が近くにあるという地の利をいかした公園整備を引き続き進めるとともに、地域のにぎわいを拡充するための住民参加による取組の継続が必要です。

④安全・安心なまちづくりの現状と課題

- ・本地域の市街地には、都市計画下水道区域が指定されていますが、未整備の箇所が残っています。今後、上越妙高駅を中心に魅力ある新たな市街地形成を推進するため、公共下水道の整備・普及を進めることが必要です。
- ・一級河川*の矢代川、青田川などについては、河川整備や維持管理などの治水対策が引き続き必要です。
- ・災害に強いまちづくりを進めるため、引き続き安全・安心に暮らせる住まいの形成や、災害時の助け合い・避難所の運営を行う自主防災組織*の編成など、防災・減災対策を検討する必要があります。
- ・空き家については、適正な維持管理が行われず、そのまま放置すれば倒壊など保安上危険となったり、衛生上有害となる恐れが懸念されるため、その対策が必要です。

⑤都市環境の保全に向けた現状と課題

- ・近年、従来の工場など産業活動に起因する苦情に加えて、住居系の地域で発生する騒音などの苦情や飲食店やサービス業の悪臭苦情など、公害苦情が多様化しています。そのため、生活環境の維持・向上に引き続き取り組む必要があります。

3) 本地域が担う役割

『上越市の広域的なゲートウェイとなる地域』としての役割を担います。

4) 地域づくりの方針

- 観光やビジネスを目的とした市内外を行き来する人々をもてなす環境整備や都市基盤*の整備に向けて、商業、ビジネス、観光、流通業務などの都市機能*の集積を目指します。
- 地域一帯に広がる豊かな農業環境の維持・保全に努め、農村集落で暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 遺跡見学などの歴史体験と連携した釜蓋遺跡公園の整備を進め、観光・文化資源としての活用により、市内外との交流・連携を支援します。

① めりはりのある土地利用の推進

- ・ 幹線道路*の沿道では、日常生活を支える店舗や教育施設、交流施設などが身近にある暮らしやすい住環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- ・ 一般県道上越脇野田新井線（通称：上越大通り）などの主要幹線道路*の沿道では、住環境に配慮した沿道の商業・業務施設などの立地を適正に図れるよう、身近な便利施設や良好な住環境が共存できる市街地環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- ・ 上越妙高駅周辺では、中高層住宅の誘導やオープンスペース*の確保などにより、本地域の様々な都市機能*をいかした利便性の高い住宅地の形成に向けた土地利用を推進します。
- ・ 流通業務地では、周辺の住環境と共存し、かつ工業地としての利便性を向上させる流通関連施設の誘導を推進します。
- ・ 流通業務地における市街地の無秩序な拡大を抑制するため、大規模商業施設の立地制限に関する土地利用規制の維持に取り組みます。
- ・ 上越妙高駅周辺の商業集積地では、観光やビジネスなどを目的とした市内外を行き来する人々をもてなすにふさわしい環境整備や都市基盤*の充実を図りながら、市内外への円滑な移動を実現する交通結節点としての利便性の確保や拠点性を高める機能の集積を促進します。
- ・ 既存の市街地においては、市民が安心して快適に生活できる住環境の形成や、市街地内の低未利用地*の土地利用の促進を図るため、今後の社会経済情勢の変化や地域のニーズに応じた適正な土地利用を検討します。
- ・ 田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。
- ・ 市街化調整区域*においては、都市計画制度の活用を図り、集落の活力の維持・向上に



に向けた地域住民の主体的な取組を支援します。

②道路ネットワークの確保

- ・市内外との広域的な移動と交流・連携を支える広域ネットワークの形成のため、上信越自動車道の4車線化の早期実現を働きかけます。
- ・本地域と各地域を結ぶ国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。
- ・地域内の生活道路*では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。
- ・上越市内各地から上越妙高駅へのアクセス性を高めるため、また良好な市街地形成を図るため、社会経済情勢の変化や地域での必要性も踏まえて、関係機関と連携しながら都市計画道路*の整備に努めます。
- ・長期にわたって未着手となっている都市計画道路*は、路線の必要性や事業の実現性を検証し、適正な見直しを検討します。

③公共交通ネットワークの確保

- ・将来にわたって市民の日常生活を支え、市内外の人の交流を促進するため、拠点間を結ぶ路線バスの維持、重複する交通網の再編成などにより、市内外の人たちが利用しやすい鉄道やバスの地域公共交通網の形成を図り、維持していきます。
- ・鉄道については、利用者のニーズ（移動需要）を踏まえた運行本数やダイヤ設定などを働きかけます。特に、上越妙高駅では、停車する全ての北陸新幹線に接続するように妙高はねうまラインの運行本数の確保及び乗り換えがスムーズに行えるようなダイヤ設定などを働きかけます。
- ・上越妙高駅と市内各地を結ぶため、信越本線、ほくほく線への直通運転及び黒井駅停車の維持・増便や、上越妙高駅と直江津港を結ぶ公共交通の確保を働きかけます。
- ・利用者ニーズを踏まえた上越妙高駅への路線バスの乗り入れ、路線の新設、ダイヤ設定などを働きかけます。

④釜蓋遺跡をいかした交流の場としての釜蓋遺跡公園の整備

- ・観光・文化資源としての活用により交流の拡大などを図るため、遺跡見学などの歴史体験と連携した釜蓋遺跡公園の整備を進めます。
- ・また、市民との協働による公園の整備運営、その担い手となる人材育成などを支援し、様々な人々で賑わう公園づくりを目指します。

⑤安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

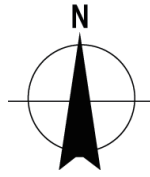
- ・生活環境の改善や河川の水質汚濁防止を図るため、また集中豪雨などに伴う浸水被害を軽減するため、下水道（汚水・雨水）の整備を推進します。

- ・県により管理される一級河川*の矢代川、青田川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川*や雨水幹線*などについても適正な維持管理を推進します。
- ・木造建物の耐震化、克雪住宅*の普及による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路*の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織*の結成及び活動を支援します。
- ・放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適切な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

⑥都市環境の保全

- ・産業活動に起因する騒音などの公害を防止し、生活環境の維持・向上を図るため、周辺と調和した適正な土地利用への見直しを図るなど、必要に応じて都市計画の面から支援します。
- ・また、生活環境の維持・向上、市街地や幹線道路沿道などでの景観の形成、防災面における安全性の向上、二酸化炭素の吸収などの環境負荷低減などのため、関係分野と連携しながら、公園緑地や街路樹などの緑地空間の保全・維持管理を推進します。

地域づくりの方針図 上越妙高駅周辺地域



(5) 上越西部中山間地域

1) 地域の概要

①位置及び都市計画上の位置づけ

- ・上越地域の上越西部中山間地域は、上越都市計画区域の西部に位置し、内陸側の大部分に中山間地域が広がり、日本海に面する沿岸部及び山間部に集落が点在する地域です。
- ・本地域は、久比岐県立自然公園以外は都市計画区域*の市街化調整区域*になっています。

②まちの変遷

- ・本地域は、二級河川桑取川河口に位置する有間川及び谷浜が江戸時代に北陸街道の宿場として栄え、明治から昭和にかけて一般国道8号、北陸本線有間川駅の設置、北陸自動車道の整備が行われ、沿岸部ではさぎえ漁が盛んな有間川漁港が整備されました。
- ・また、桑取谷では、豊かな湧水と良質な土壌をいかした稲作が営まれ、良質の炭の産地としても有名になりました。平成になりくわどり市民の森として緑豊かな自然資源をいかした施設が整備されました。

③交通ネットワーク

- ・本地域には、日本海に沿って北陸自動車道、一般国道8号、また地域東側に上信越自動車道が通っており、柏崎市方面、糸魚川市方面や妙高市・長野県方面などとの交流・連携を支える広域ネットワークとして重要な路線となっています。
- ・また、一般国道8号は、本地域と各拠点間との交流・連携を支える幹線道路*として、地域住民の日常生活や産業振興などを支える重要な路線となっています。
- ・本地域の西側には、北陸自動車道名立谷浜インターチェンジが配置されており、主要地方道名立谷浜インター線から一般国道8号を経由して本地域へアクセスすることができます。
- ・本地域には、えちごトキめき鉄道日本海ひすいラインの谷浜駅・有間川駅があり、直江津方面や糸魚川市・富山県方面を連絡しています。
- ・本地域には、路線バスが運行しており、桑取線や名立線などが直江津方面と、正善寺線が高田方面と連絡しています。

④地域資源

- ・本地域には、豊かな自然環境の中で人々が生活を営む中山間地域が広がっています。
- ・本地域には、大地に恵みをもたらす天然のダムとなっている南葉山地、くわどり市民の森自然環境保全地域などの豊かな自然資源や、久比岐県立自然公園（南葉高原キャンプ場、たにはま海水浴場、金谷山公園など）、里山の面影を色濃く残しているくわどり市民の森、自然とのふれあいや地元の新鮮な農産物を使った料理が楽しめる温泉宿



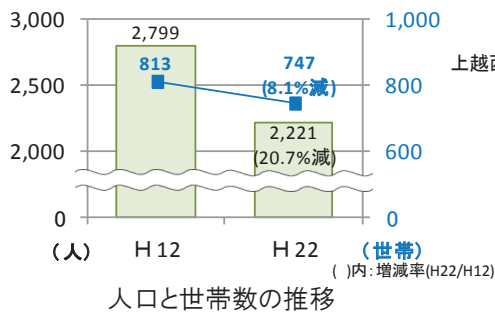
泊施設（くわどり湯ったり村）、自然をいかした憩いと交流の場となっているたにはま公園などの観光資源やさざえ漁が盛んな有間川漁港があります。



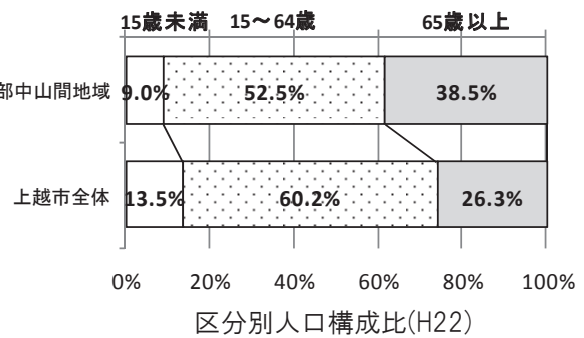
自然環境に囲まれた集落



たにはま公園



人口と世帯数の推移



上越西部中山間地域に関するデータ

- 総面積：約 120 km²（約 12%）
- 総人口：2,221 人（約 1%）
- 世帯数：747 世帯（約 1%）
- 15 歳未満の人口比率：約 9%
- 高齢化率：約 39%
- 人口増減率（H22/H12）：約 21%減

出典：平成 22 年国勢調査に基づき集計
※()内は市全体に占める割合

2) 地域の現状と課題

- 中山間地域における集落の維持を図るため、農村部において暮らし続けられる生活環境や農業環境の維持、新たな居住者の確保などに向けて取り組む必要があります。
- 日本海に面する沿岸部と中山間地域からなる本地域では、津波に伴う浸水被害、正善寺川下流の洪水被害、沿岸部における海岸浸食、土砂災害の危険のある区域の存在などの課題に対応し、安全・安心なまちづくりに取り組むことが必要です。
- 自然資源や観光資源にみがきをかけて、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

①土地利用の現状と課題

- ・ 本地域は、地域一帯が森林でおおわれた中山間地域となっており、地域内に集落や農地が点在しています。また、本地域では人口が減少し、高齢化率も約3割となっています。
- ・ そのため、中山間地域における集落の維持を図るため、農村部において暮らし続けられる生活環境や農業環境の維持、新たな居住者の確保などに向けて取り組む必要があります。
- ・ また、集落及び農業環境や自然環境の維持・保全を図るため、市街化調整区域*における適正な土地利用が引き続き必要です。
- ・ 本地域には、くわどり市民の森、久比岐県立自然公園、くわどり湯ったり村などの観光資源があります。これらをいかした交流・連携の充実に図るため、観光資源の活用が引き続き必要です。

②道路・交通ネットワークの現状と課題

- ・ 地域住民の日常生活や産業活動を支えるため、また本地域と各拠点の交流・移動を支えるため、国道・県道及び北陸自動車道などの安全・安心な道路ネットワークの確保に取り組むことが必要です。
- ・ また、地域内における日常生活を支えるため、地域の実情に配慮して、安全・安心な生活道路*の確保が必要です。
- ・ 地域公共交通*の利用者は減少し、その維持・存続が年々厳しくなっています。今後は、高齢化の進行により地域公共交通*を必要とする市民が増加すると推察されることから、日常生活を支える公共交通の維持・確保が重要となります。
- ・ また、直江津方面や糸魚川市方面への通勤・通学などの日常的な移動や広域的な交流を支えるとともに、北陸新幹線開業による来訪者の交流を促進するための公共交通の維持・確保が必要です。

③たにはま公園の現状と課題

- ・ 本地域には、自然をいかした憩いと交流の場となるたにはま公園があります。今後、



市内外との人の交流及び地域のにぎわいの充実に向けて、たにはま公園の利活用を進めることが必要です。

④安全・安心なまちづくりの現状と課題

- ・ 一級河川*の正善寺川や二級河川*の桑取川などについては、河川整備や維持管理などの治水対策が引き続き必要です。
- ・ 津波ハザードマップ*において、沿岸部の一部が津波発生時の避難対象地域に指定されています。そのため、避難対策について行政と地域住民が一体となった検討が必要です。
- ・ 災害に強いまちづくりを進めるため、引き続き安全・安心に暮らせる住まいの形成や、災害時の助け合い・避難所の運営を行う自主防災組織*の編成など、防災・減災対策を検討する必要があります。
- ・ 空き家については、適正な維持管理が行われず、そのまま放置すれば倒壊など保安上危険となったり、衛生上有害となる恐れが懸念されるため、その対策が必要です。
- ・ 中山間地域には、土砂災害の危険のある区域が存在することから、行政と地域住民が連携した、土砂災害防止や被害軽減に向けた取組が必要です。
- ・ 本地域の沿岸部にあるたにはま海水浴場などの海岸において海岸浸食が進んでいます。そのため、海岸浸食の進行などを軽減するための対策が必要です。

3) 本地域が担う役割

『豊かな自然環境と共生する集落の暮らしが続けられる地域』や『自然を守りながら、市民が自然と親しむ場となる交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

4) 地域づくりの方針

- 中山間地域における集落機能、農業環境などの維持・確保などを図り、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 津波避難誘導看板の設置やハザードマップ*などによる周知活動、海岸保全施設の整備促進、自主防災組織*の支援などの防災・減災対策に取り組み、安全・安心な暮らしを支える環境の維持・確保を目指します。
- 自然資源や観光資源などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。また、幹線道路*や生活道路*の適正な維持管理及び整備などに取り組みます。

① めりはりのある土地利用の推進

- ・ 農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。
- ・ 市街化調整区域*においては、都市計画制度の活用を図り、集落の活力の維持・向上に向けた地域住民の主体的な取組を支援します。
- ・ 地域住民が身近に自然と親しむことができるくわどり市民の森、久比岐県立自然公園、くわどり湯ったり村などの観光資源の活用により、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。
- ・ 安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、津波、土砂災害、なだれ、正善寺川下流の洪水被害などに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。

② 道路ネットワークの確保

- ・ 本地域と各地域を結ぶ国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。
- ・ 地域内の生活道路*では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。

③ 公共交通ネットワークの確保

- ・ これまでの鉄道、路線バスなどの地域公共交通*を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、路線バスの重複区間の再編成や

地域の状況に応じた新たな地域公共交通*の導入などにより、地域公共交通*を維持・確保します。

- ・ 鉄道については、利用者のニーズ（移動需要）を踏まえた運行本数やダイヤ設定などを働きかけます。

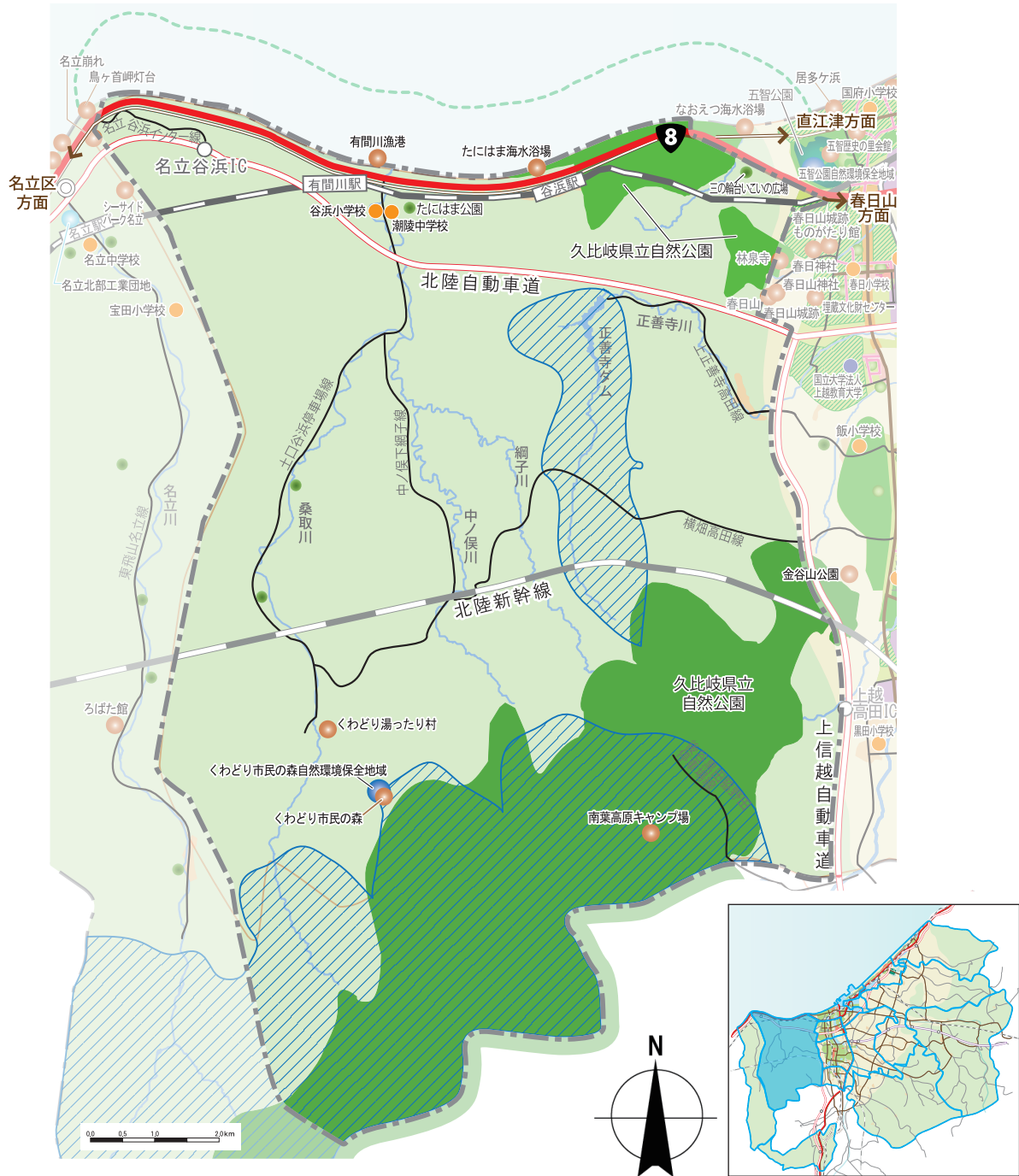
④地域住民との協働によるたにはま公園の維持管理及び活用の検討

- ・ たにはま公園の美化推進や利用促進などを図るため、地域住民との協働による維持管理を検討するとともに、地域住民による維持管理の活動を支援します。
- ・ たにはま公園にある多目的広場（バーベキューエリア）、海の見える丘、創造の森、ドッグランなどの特色をいかし、市内外との交流の場としての活用に取り組みます。

⑤安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

- ・ 県により管理される一級河川*の正善寺川、二級河川*の桑取川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川*などについても適正な維持管理を推進します。
- ・ 津波から人命を守る観点から、津波発生時の避難対象地域においては、避難場所表示や津波避難誘導看板の設置、ハザードマップ*などによる周知活動を図ります。
- ・ 木造建物の耐震化、克雪住宅*の普及による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路*の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織*の結成及び活動を支援します。
- ・ 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適切な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。
- ・ 土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。
- ・ 沿岸部の海岸浸食への対策として、海浜地の海岸保全施設の整備を促進します。

地域づくりの方針図 上越西部中山間地域



土地利用		公園		交通ネットワーク	
住宅を主とする低層低密な住宅地	生活利便施設混在型住宅地(中高層)	広域公園	総合公園	高速道路	高規格道路
沿道商業混在型住宅地	商業混在型高層住宅地	運動公園	都市公園	主要な幹線道路	都市計画道路
工業集積地	流通業務地	特殊公園	地区公園・近隣公園	都市計画道路以外	都市計画道路
商業集積地	生活利便商業集積地(一部、沿道商業混在型住宅地を含む)	その他の公園(農村公園、広場など)	その他の公園(農村公園、広場など)	都市計画道路	都市計画道路
田園地域	中山間地域	自然公園		その他幹線道路	
都市計画区域	集落			※実線は現状 点線は計画・構想	
その他					
河川	景観づくり重点区域	市役所・総合事務所	工業団地	鉄道	新幹線
自然環境保全地域	水道水源保護地域	小・中学校・高等学校	その他の施設	駅	IC
		大学	病院		